

【令和7年度 宮崎県立宮崎南高等学校 学校評価】

評価項目目標	具体的な方策	成果◎と課題▲ 【各部の反省や進捗状況】	自己評価		次年度以降の改善策	学校関係者評価	
			項目別	総合		評価	
						項目別	総合
1 学力向上 ①ICTを利用した授業の工夫改善による学力の定着・向上	■一人一台端末	・Google Classroomを用いて、課題の配布・提出、資料の提示等、利用頻度は高い。	4.0	3.6	Microsoft365については、利用頻度が少ないが、情報科と連携して研修等を行う	4.0	4.0
	■スタディーサポート	・国教英の基礎力を測定し、事後の常時指導につなげていく。WEB版での実施も検討している。			学習習慣等を数値化し、見える化できるという利点はあるが、活用方法をさらに充実させる必要がある。		
	■Classi活用	・学習トレーニング機能は、教科・科目数も増え、隙間時間にも有効活用できる ・連絡ツールとしての活用は十分であるが、学習ツールとしての活用を浸透させていく手立てが必要である。			・校務支援ツールとしての充実をさらに図るため、「申請・提出物」機能を活用していきたい。		
	■デジタル採点システム	・百問繚乱を定期考査・小テストで大いに活用している。・百問繚乱を定期考査・小テストで大いに活用している。			本年度は高校入試の採点にも活用されており、問題なく運用できている		
	■各種通信(部・学年・教科)	・生成AI研修も行われ、校務の短縮につながっている。			生成AIのさらなる利用により、働き方改革にもつながってほしい。		
②個別指導の徹底と自学学習の充実による、徹底した基礎力及び応用力の定着	■55分授業	・55分間もさることながら、放課後の時間の有効活用につながっている。	4.0	3.5	・カリキュラムマネジメント、働き方改革の視点も取り入れて行きたい。・期末考査ごとに曜日調整をしっかりとしながら移動コマを設定していきたい。	4.0	3.5
	■放課後セミナー(3年生)	・延べ受講者数1070名(昨:823名、一昨:879名)を見ても、意識の高さがうかがえる一方、自走できる生徒の育成が課題。			・Ⅰ・Ⅱ期ともに各生徒のニーズに合った講座を展開できている。年内入試の時期と重なるⅡ期の在り方について検討していく。		
	■朝補習	・完全不受講者は学年が上がるにつれ増加傾向。Ⅱ期は、不受講者数微増。			・朝補習の効果についての検証をおこない、今後の在り方について検討していく。		
③探究活動をととして、主体的に課題を設定し、解決できる人材の育成	■高大連携	・教師みらいセミナー、宮崎大学・宮崎公立大学出前講座、各探究活動への協力等、地元大学には多大なる御協力を頂いている。	4.0	3.3	・多種多様な連携事業に、多くの生徒が参加できる広報、手立て等を充実させていく。	4.0	4.0
	■各種発表会・コンクール	・3年生の外部コンテスト(MSEC)参加者の増加が見られた。(R6:68名→R7:104名)			参加促進の要因を分析し、早期からの情報提供と指導体制を強化する。		
	■鵬イノベーションコンテスト(1年)	・普通科の課題設定力を強化するために、昨年度までの実施方法を改善して取り組んでいる。			成果と課題を検証し、探究テーマ設定の指導を体系化する。		

	<p>■学校行事</p> <p>・昔とは違う気候環境の中、行事の実施時期の検討を行っている。特別活動である学校行事の意義を生徒に理解させ、自己有用感などを高め、学校生活満足度を高めていくためのPDCAサイクルも常に心がけていきたい。</p>	3.5	<p>・体育の部の時期を大きく変更した。そのために、今年度よりコンセプト、内容などについて生徒の意見、満足感を得られるよう会議を重ねていきたい。</p>	4.0	<p>大学の文化祭のように、より多くの人が直接行事にかかわるとモチベーションも上がるのではないかと思います。</p>
<p>③文武両道を推進し、学習、部活動等とも高いレベルを目指す</p>	<p>■1年生の初期指導(FORM)</p> <p>・各教科から普通科高校生としての学習の心構えや各主任から学校生活の送り方について話をしてもらった。様々な場面で継続的に指導している。</p>	3.5	<p>南高校生としての自覚や学校生活の送り方を毎年変わることなく指導できている。</p>	4.0	<p>「学校に存在しない部」とは、学校が認めることなく勝手にグループを形成し活動しているということでしょうか？また、生徒会への立候補者が増えている理由は何でしょうか？生徒による自治活動が活発化すると面白いのでしょうか、難しいですか？小学校、中学校との連携は非常に重要だと思います。継続されること期待します。しっかりと取り組みができていないように思います。特に改善点なども見られません。記述の意味がよく分からないのですが、多様な活動がなされているのであれば、それでよいのではないですか？生徒会が盛り上がっているのは良いことだと思います。方々で活躍しているようすし、少し評価が辛いのかなと思いました。資料の作成も大事ですが、直接話して引継ぎを行う期間を従来よりも長めに取れたら良いのではないかと思います。</p>
	<p>■部活動</p> <p>・学校に存在しない部で活動するケースが増え、規定を追加した。</p>	4.0	<p>活動が多様化し、活躍の場の確保のために今後も継続して取り組む。</p>	4.0	
	<p>■生徒会活動</p> <p>・近年、立候補者が多く活性化している。文化祭やオープンスクールで活躍している。・各種学校行事の企画運営に尽力することができたが、公約の実現や生徒の自治活動の活性化には至っていない。学校行事の精選を図りながら、生徒自身のタイムマネジメント能力の育成を図りたい。</p>	3.5	<p>3.6</p> <p>文化祭やオープンスクールでは教師の期待を超える活躍をしている。次年度へ向けての準備も着々と進めており、生徒会としての機能が果たせるよう継続して仕向ける必要がある。生徒会役員が入れ替わる際の引継ぎが不十分で業務を円滑に進められないことが多々見受けられる。各業務の引継ぎ資料を作成することで業務の円滑な引継ぎを図り、公約の実現に向けた活動を充実させたい。</p>	4.0	
	<p>■生徒委員会活動</p> <p>・通常の活動に加え、小学校と連携した挨拶運動や交通安全運動ができた。・約2ヶ月に1回の委員会活動を通して、より良い学校生活の実現に向けて努力した。担当教員と各種委員長・生徒会担当との打ち合わせを充実させ、自治活動をより活性化させたい。</p>	3.5	<p>各委員会ともに課題を見つけ、その解決に取り組む動きが見られた。特に交通安全委員会は学校内外ともに活動の幅を広げることができた。各種委員会が積極的に活動しているが、クラスによって取り組みや周知にばらつきがある。各種委員会の集いが定着しているように見える。</p>	4.0	
<p>④定期航空路が開設された韓国や台湾等を中心とした国際交流推進する</p>	<p>■国際ボランティア活動</p> <p>・県高文連「国際・ボランティア」部の活動の一環で、韓国ラオン高校・チャンイ高校・コンジウム高校の3校と年3回セッションの『メンターメンティ』プログラムに毎年UNESCO部を中心に参加。・今年度はラオン高校より生徒のホームステイを受け入れ学校体験を実施した(昨年度はチャンイ高校受け入れ)。・県高文連文化交流事業の韓国派遣にてラオン高校とチャンイ高校に本校より生徒5名派遣(3泊4日)・英語授業では台湾の高校生とオンライン交流を行う予定(12月～1月)。</p>	4.0	<p>3.8</p> <p>本校に高文連国際・ボランティア専門部事務局がある関係で、本校教職員の御協力のもと、継続性のある充実した国際交流が実施できている。直行便がある韓国・台湾の高校生との交流は、生徒の国際理解と海外志向を高め、広い意味での平和的関係の構築に資する一助となることを期待しているが、授業内容を精選する必要がある。</p>	4.0	<p>「視野は世界、活動は地域」という考え方に共感します。国を超えた同年代の人との交流を通し、他の国の文化を理解するためにも、英語によるコミュニケーション能力を身につけられることを期待します。異文化理解への意識が高いことは素晴らしいことだと思います。宮崎にも韓国や台湾からの留学生はたくさんいるので、国際交流に関しても高文連連携を利用できるのではないかと思います。中国語や韓国語を大学で教わっている大学生なども交流してもいいかもしれません。なかなか円安の影響で海外に行きにくい状況が続いていますが、何とか続けてほしいところです。</p>
	<p>■修学旅行</p> <p>・海外コースとして韓国を選択し、希望者を募って行く</p>	3.5	<p>旅費高騰による行程の変更があったが海外、国内ともに計画できた。</p>	4.0	
<p>4 生徒支援体制等の充実</p> <p>①生徒が抱える問題の早期把握と、共通理解の下、組織で対応</p>	<p>■面談週間</p> <p>・4月中旬から面談週間を設けることにより生徒の早期理解に努めた。(1年生)外部の心理テストを活用し、分析結果をクラス経営や面談の資料として活用している。</p>	4.0	<p>R8は5月に鵬祭体育の部を実施することになるため、4月の行事は目白押しである。しっかりと面談時間を確保することで特に1年生の順調なスタートにつながるよう、反省を生かして生徒理解に努めたい。</p>	4.0	<p>時間のかかる個別面談ですが、非常に重要だと思っております。1年生は入学したばかりで不安と緊張の日々を過ごしていると思います。引き続き、対応をよろしくお願いたします。面談に力を入れていらっしゃることは素晴らしいと思いますが、学校生活での悩みが生じるのはもともと後になってからのようにも思います。いろいろ熟考された上での設定だとは思いますが、4月がベストの時期なのか検討されてもいいのかなと思いました。</p>
	<p>■各種会議による生徒の情報共有</p> <p>・いじめ不登校委員会や学年主任会、各学年会で生徒情報の早期集約に努めている。</p>	3.5	<p>左記の委員会、学年主任会などで生徒・学年の情報をより一層全職員で共有し、安心安全な学校づくりに努めていきたい。</p>	3.5	<p>いじめ、不登校の対応は非常に大変かと思いますが、これらに関しては何か対応マニュアルのようなものがあるのでしょうか？教員の力量に委ねるのは危険な気がします。同時に教員の働き方改革は重要な課題です。何に一番時間が取られ、何の改善が最も重要なかを抽出して対応に取り組まれることを期待します。学校全体でいじめや不登校を解決しようと姿勢が窺えました。記述を見る限りしっかりと取り組まれているように見えますが…。教員は頑張ろうと思えばどこまででも頑張ってしまう職業だと思います。教職員の負担軽減には継続してしっかりと取り組んでもらいたいところです。</p>
<p>■働き方改革の推進</p> <p>・OJTの喚起、教材の共有化を教科代表者会を通じて呼びかけた。定例及び必要に応じて緊急にいじめ・不登校対策委員会を開催している。</p>	3.3	<p>・夏期に行った生成AI職員研修以降、多くの先生方が利用し、校務DXの向上につながっている。</p>	3.5		
<p>③環境整備の充実と、防災意識の向上による安心・安全な環境保持</p>	<p>■避難訓練</p> <p>・年度当初に大地震を想定した避難訓練を実施した。本校は生徒数が多いため、多くの負傷者が出ないように、各自の対応力を高められることを目標にした。</p>	3.5	<p>・4月当初に避難訓練を行った。事故なく無事に訓練を終えることができた。普段の集会時の集合においても、クラス単位で短時間で整然と並び、担当に報告するという点では避難訓練と同様であるので、意識して取り組ませたい。</p>	3.5	<p>定期的な避難訓練や防災教育が、いざという時の役に立ちます。継続的な取り組みをよろしくお願いたします。良い取り組みだと思います。上から言われたからではなく、生徒が納得して清掃に取り組むよう導いてもらいたい。生徒たちの中で災害に対する意識が高く保たれていると思いました。避難訓練に真剣に取り組んでいるのは素晴らしい。防災教育については、地域との結びつきを深める学びや活動とリンクできれば地域連携と実際の学びが達成できる。</p>

	■防災教育	・関係各所から配布される資料の活用や、台風接近時に注意喚起を行うことで、防災についての意識を高めるようにした。	3.5	・教室をはじめとする校内の整理整頓を始め、常時から地震や火災に対する心構えを持たせることで、非常時の初動に遅れのないように意識付けができています。	3.5	3.5	防災への意識を高く保てていると思います。大学には防災に関する授業もあるので高大連携もありがたかったです。
	■清掃活動	・日々の10分間の清掃活動を通して、環境美化について短時間で集中して取り組む意識を高めるようにした。	3.5	・清掃について、生徒間で取り組みに差がある。監督の先生方の清掃についての教育的価値を高いレベルで合わせたい。	3.5		
④不登校に対する総合支援の推進(SC・SSW、コネクの活用)	■スクールカウンセラー、SSWとの連携	・SC、SSWは人材に恵まれ継続的かつ個に応じた支援ができています。・現在コネク利用者は少ない。・安心感のある学校づくりのために、さらに生徒へ積極的に関与する必要があると考えています。	5.0	相談活動、研修の講師、ケース会でのファシリテーター、外部機関からの情報収集など、引き続き多方面でSC・SSWを活用したい。	5.0	4.3	非常に解決に結びつけることが難しい課題です。高校教員の業務の範囲を超えていることが多いと思われます。大きな問題となる前に、スクールカウンセラーや外部機関の協力を積極的に仰ぎ、対策を講じてください。話を聞いてもらうだけでも生徒は心が軽くなったりするので、傾聴の訓練は大事かなと思った。「ハイリスクの生徒」の「ハイリスク」とは何のリスクを指しているのか分からないが、一人ひとりを取り巻く事情は千差万別なので、あまり機械的に進めない方がいいのではと思った。
	■いのちを大切に教育の推進	・養教とSCによる対話式の講話を実施した。自分を大事にすること、いつでも相談できることを強調した。	4.0	生徒の心育として、心を揺さぶる題材を探し教材化する。また、人権学習とリンクさせた傾聴訓練を行う。	4.0		
	■いじめ・リクエスト相談	・いじめの訴えがあった生徒への聞き取りを迅速に行い、重大事態に発展することは防げた。・リクエスト相談により生徒のニーズを把握し相談活動の充実に努めている。	3.0	いじめ・不登校の早期発見・予防のために調査・検査を適時実施する。また、分析結果を元にハイリスクの生徒に面談等を行い支援に繋げる。	4.0		